進路だより

秋田県立秋田きらり支援学校
第２号
令和元年７月２０日発行

高三の今・・・6月の実習・・・

進路決定に向けて。ある先輩の例です。
後輩のみなさん！参考にしてください。

【二カ所で実習をした理由】

進路決定で迷っているので一カ所にしぼるために二カ所の候補で実習をしました。

【 **A** での実習について 】

お菓子の箱折り、機械で箱折り、盆ろうの小り取り、組み立て、リース作りをしました。
雰囲気は仕事中は静かに黙々とやっていて休み中は話したり遊んだりしていました。
通勤力は冬は場が少し大変です。

【 **B** での仕事について 】

野菜の袋詰め、名刺作り、トリコンの仕分け、ゴミ減量グッズを作りました。
雰囲気は仕事中は静かに黙々とやっていて休み中は休んだり話をしたりしました。
通勤力は得に大変ではないです。立ち仕事もあります。

【この後どのようにしていけばいいと思いますか。今後の目標は？】

仕事の内容や通勤力距離を比べ自分の体力に合わせ休まないで行ける場所を選びたいです。今後は立ち仕事もできる体力をつけたいです。

裏面は学部毎に内容が異なります。ご希望があれば差し上げますので、担任にお伝えください。また、学校のホームページと、玄関前の掲示版でも見ることができます。

【各学部掲載記事】
小学部：車椅子で利用できる楽しい施設について
中学部：高等部卒業後の進路②～生活介護施設での生活（通所型）
高等部：前期現場実習を終えて～実習を行った３年生の現状
【共通記事】秋田県障害者技能競技大会・秋田県特別支援学校職業教育フェスティバルについて

前期現場実習を終えて

６月１７日（月）～２８日（金）、２週間の前期現場実習の期間が終わりました。保護者の皆様も、事前挨拶に始まり、初日・最終日の挨拶、送迎、昼食準備など御協力ありがとうございました。各挨拶や送迎の際に、生徒たちの作業の雰囲気も感じていただけたと思います。

今回は、いよいよ来年に卒業を控え、実習を行った３年生の現状を数例掲載します。　（文責：伊藤和）

【３年１組の生徒】B型や生活介護事業所、入所支援

A）B型事業所２カ所で１週間ずつ実施し、事業所からの実習評価や自分のやりがいなどを含め、どちらかに進路先を絞る予定。

B）来年度の利用を見据えた実習を実施。その様子を事業所、本人、家族、学校で最終調整していく予定。

C）入所検討の生徒は、見学や相談を実施。

＊来年度を見据えた実習を行うことで、自分に最適な事業所を選択したり、来年度への見通しをもったりすることができました。

【３年２組の生徒】生活介護事業所、入所支援

A）来年度を見据えた２カ所の事業所で見学と実習、将来の短期入所に向けた見学と相談。

B）来年度を見据えた実習を実施。

＊来年度を見据えた実習を行うことで、食事や排せつなどの支援内容を確認したほか、気を付ける点を実習中に確認できました。

【入所支援を希望する生徒】

入所支援を希望する生徒は、複数の施設を見学し、利用を前提とした相談と申し込みの手続きをしてきました。

【３年３組の生徒】一般就労に向けて

A）一般就労に向けて、学校・家庭生活をとおして、自分でできることを増やしている最中。就労した際、仕事面、生活面などで、自分一人でも困ることのないように現在奮闘中。

今後は就労を目指し、必要な知識・技能を獲得するために、努力していく予定です。

２年生の年度末に、決めたり、絞ったりした実習先で実習を行った３年生。来年度からの利用に向け、本人、家族、学校が最終確認しました。生徒によっては、今後も個別に実習を重ね、最終調整をしていきます。

秋田県障害者技能競技大会・秋田県特別支援学校職業教育フェスティバルが行われました

秋田県特別支援学校の職業教育のレベルアップと、一般企業への雇用促進を目指し、７月１２日（金）秋田市にぎわい交流館 AU（あう）で同時開催されました。

「秋田県障害者技能競技大会」には県内 15 校の特別支援学校の生徒や一般企業から選手が参加し、ビルクリーニングや縫製など７部門で、日頃鍛えた技を競いました。本校からは高等部３名がワープロ部門に出場し、ワードを使った３０分の課題を２回行いました。結果は相原萌さん銀賞・伊藤陸さん銅賞でした。おめでとうございます。

「秋田県特別支援学校職業教育フェスティバル」には、本校は昨年度までは作業製品とパネルの展示のみでしたが、今年から高等部作業学習の「縫製・紙工班」「エコ・グリーン班」が参加しました。他校の作業学習をはじめとした職業教育の取り組みを学び、自分たちの作業製品の販売も行いました。まだまだ、他校の製品のレベルとの差があることを実感し、刺激を受けてきたところです。今後、製品の開発と改善を重ね、更に作業学習のレベルアップを目指します。

（文責：池田和）

作業製品の販売の様子